



「艶」vs「速」 色で競う、異なる美学。

#09

右ハンドル MTA 仕様の ABARTH 695 COMPETIZIONE (オレンジレーシング) と、
左ハンドル MT 仕様の ABARTH 695 75° ANNIVERSARIO (ネロスコルピオーネ)。
2 台の ABARTH 695 を、それぞれまったく異なる世界観をテーマでカスタマイズ!!
ラグジュアリー (艶) とスポーティ (速)、あなたならドッチのスタイルを選ぶ!?



価格：9900 円 (税込)

素材は真鍮。マット仕上げの〈金の鱗〉と、黒くいぶされた〈黒の鱗〉の 2 タイプを展開。使うほどに味わいが出るのがポイント

SPORTY STYLE



LUXURY STYLE

ラグジュアリー×スポーツ、2つの ABARTH が魅せる世界。

オレンジの ABARTH 695 COMPETIZIONE (コンペティツィオーネ) は、イタリアントリコロレのカーボンパーツを散りばめ、18 インチホイールとともにラグジュアリーな装いをまとった。鮮やかなボディに宿るのは、優雅さと刺激の絶妙なバランス。

対するブラックボディの ABARTH 695 75° ANNIVERSARIO (セッタンタチンクエ・アニヴェルサーリオ) は、漆黒のカーボンにイエローカーボン&カラーパーツをミックス。目にも鮮やかなコントラストが、ピュアスポーツの本質を鋭く突きつける。

足まわりは両車とも、走り快適性を高度に両立する KW Ver.3 を装備。ローダウン量は約 25 ~ 30mm、ボディ補強パーツは共通仕様で、前後ともに約 3 度のキャンバー角を与えられている。硬派なチューニングながら、街乗りにも十分対応する実力派だ。

ホイールは、それぞれの個性を決定づける象徴的な存在。オレンジのコンペティツィオーネが履くのは、アメリカ発のプレミアムブランド HRE PERFORMANCE WHEELS の Vintage Series 454。イタリアンスーパーカー、ランボルギーニ・カウンタック 25th アニバーサリーへのオマージュが込められたアートピースとも言える一本で、サイズは 18 × 8.0 インセット +25。一方、アニヴェルサーリオには、イタリアのワンメイクレース「トロフェオ 500」の公式採用モデルである OZ LEGGENDA (レジェンダ) をインストール。サイズは 17 × 7.0 インセット +36 に前後 18mm スペーサーを加え、低くワイドなスタンスを実現している。

異なる哲学をまといながらも、ともに ABARTH の魂を体現する 2 台の 695。ラグジュアリーとスポーツ、その美学の交差点に、答えはある。

クラフトマン
岡山県岡山市北区下中野 701-107
TEL.086-245-0459 <https://craftsman-jp.shop>
営業時間：10:00~18:00 定休日：毎週火曜日、水曜日



Craftsman **ALTeena**



SPORTY STYLE



ラグジュアリー×スポーツ、2つの ABARTH が魅せる世界。

オレンジの ABARTH 695 COMPETIZIONE（コンペティツィオーネ）は、イタリアトリコロレのカーボンパーツを散りばめ、18 インチホイールとともにラグジュアリーな装いをまとった。鮮やかなボディに宿るのは、優雅さと刺激の絶妙なバランス。

対するブラックボディの ABARTH 695 75° ANNIVERSARIO（セッタタチンクエ・アニヴェルサーリオ）は、漆黒のカーボンにイエローカーボン&カラーパーツをミックス。目にも鮮やかなコントラストが、ピュアスポーツの本質を鋭く突きつける。

足まわりは両車とも、走りと快適性を高度に両立する KW Ver.3 を装備。ローダウン量は約 25 ～ 30mm、ボディ補強パーツは共通仕様で、前後ともに約 3 度のキャンバー角を与えられている。硬派なチューニングながら、街乗りにも十分対応する実力派だ。

ホイールは、それぞれの個性を決定づける象徴的な存在。オレンジのコンペティツィオーネが履くのは、アメリカ発のプレミアムブランド HRE PERFORMANCE WHEELS の Vintage Series 454。イタリアスーパーカー、ランボルギーニ・カウンタック 25th アニバーサリーへのオマージュが込められたアートピースとも言える一本で、サイズは 18 × 8.0 インセット +25。一方、アニヴェルサーリオには、イタリアのワンメイクレース「トロフェオ 500」の公式採用モデルである OZ LEGGENDA（レジェンダ）をインストール。サイズは 17 × 7.0 インセット +36 に前後 18mm スペーサーを加え、低くワイドなスタンスを実現している。

異なる哲学をまといながらも、ともに ABARTH の魂を体現する 2 台の 695。ラグジュアリーとスポーツ、その美学の交差点に、答えはある。

理想のプントを追求し続けて たどり着いた境地...

ABARTH PUNTO

mas@さん

もともとベースモデルからチューニングをされているのがアバルトというブランドだ。しかしそれだけでは満足できなくなってくる、というのも人情。ではどこまでコダワリをもって仕上げるのか。そこを突き詰めていったのがこのクルマだ

アバルトはフィアットのクルマをメインにチューニングをおこなうブランドとして生まれ、その後メーカー純正チューナーブランドとなったわけで、このアバルトブランドもそのラインアップのひとつ。オーナーのmas@さんがこれを選んだ最大の理由は、走り自体の楽しさにあった。

過去にはB11型のレガシィGT-BやアウディA4に乗り、その後購入したアルビナB6には6年乗っていたmas@さんがこのアバルト・プント・スパーサースポーツに乗り換えたのは2019年のことだった。コンパクトなボディにパワフルなエンジン、そしてモノトーンでまとめられた外装に魅かれての購入だったのだが、すこし残念だな、と思ったのは内装のチープさ。そこでベースとなるイメージを崩さないまま、よりクオリティの高い仕上げを目指してカスタマイズへと取りかかったそう。

まず外観にはマクストンデザインのエアロパーツを装着。このアイテムは比較的小型で、そのままでは強いアピール度はないのだが、そこにラインを追加することで統一感と存在感を演出している。ローダウンはBCレーシングの車高調でセットアップ、ホイールは最初、オーゼットのハイパーGTをセットしていたのだが、ラリーレーシングのグロスブラックが発売されたため、迷わず交換。カーボンのプロテクションフィルムや同じくカーボンのドアミラーカバーを装着することで、モノトーンテイストを加速させている。

次にインテリアだが、これはカーボンの外装に合わせてカーボンスポークのステアリングや、ホワイト&ブラックのフロアマット、ワンオフ製作してもらったピアノブラックのインパネなどを装備。こちらもモノトーン基調とすることで、内外装の統一感を演出している。チューニング面では埼玉・越谷にあるファーストでワンオフ製作し



U オーナーたちの
フィアットアバルト愛

ABARTH
MAGAZINE

USERS FILE

PHOTO: FesTrico
TEXT: 塩見誠

完成したばかりの レザーシート張り替え

○エアロ フロントスポイラー/サイドステップ/リアアンダー：マクストンデザイン ○足まわり ホイール：OZラリレーシング(17×70J 60) タイヤ：ミシュラン ハイロックスポーツ5(215/40R17) サスペンション：BOレーシング車高調 ○エクステリア カーボンプロテクションシールド QLOS フロントナンバーステー アルバートリック・ワイドビュー・ドアミラー・レシズアルフト・カーボンミラーカバー ○インテリア スバルシート(ロブソンレザー張り替え) 電装：プロトタイプ60 カロ・フラクシーマット ファーストオリジナルピアノブラックインパネ、ブラックスワッチノブ カーボンサイドブレーキノブ、チューニング マフラー・ファーストオリジナル エアクリーター・TEZZO ブレーキ・APレーシングキャリパー 662φブレーキローター コンピューター・デジテック 燃料インタークーラー オレカ・ターボホース ハイパークブレミアムイグニッションコイル トルックコ・ディパーターバルブ/スロットルスペーサー

でもらったマフラーと、それに合わせてチューニングされたデジテックのECUがポイントだ。

2024年春に参加してくれたフェストリコ主催の蘇我イベントでは、完成度の高さが評価されて人気投票の第3位を獲得した。ところがmas@さん本人は「インテリアの仕上がりに納得がいていない」という状態だったために、擦れてしまっていたシートの張り替えを決断。2025年5月、富士市で開催された、CIAO! フェストリコ2025で再会した際、「もうすぐで内装のオーダーメイドが完成するんですよ」ということを聞き、今回あらためて撮り下ろし取材をさせてもらう運びとなったのだ。

そのシートの張り替えを依頼したのは、さまざまな車両の特注内装で知られているロブソンレザー。もちろんこれも特注で仕上げてもらったもので、質感だけではなく色合いもこのクルマのインテリアにマッチしたものとなっている。ここまでにかけた時間は約6年。自分で行うことはDIYで行ない、難しい部分は前述のファーストや川口市のトルックコ、ステイラーに作業依頼をすることで、機能とルックスのバランスを保った仕上げとしている。だから「買い物からツーリングまで、いろいろなことに使っていて問題なしです」という、マルチユースなクルマとなっているのだ。



ラリレーシングは17インチ。当初予想していた完成形からすればこれでOKなのだが、18インチ化にも興味がわきはじめているようだ



使用しているパーツのブランドステッカーをクォーターウィンドに貼り込むことでスポーティなイメージをアピール。これも白で統一



アバルト・ブント・スーパースポーツが標準装備していたマットブラックラインを生かした仕上げ



バックランプやバックフォグなどを現代風にLED化。細かい部分の隙もないまとめ方は見事だ



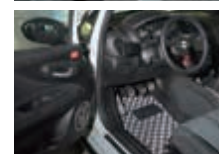
吸排気系とECUチューンによるパワーアップはしているが、エンジンまわりは故障なし



APの対向ピストンキャリパーとビッグローターをセットすることで制動力をレベルアップしている

INTERIOR

傷んだスポーツシートを ワンオフで張り替え



使い続けて馴染んでいたスバルコのシートだったが、表皮が擦れて傷んでしまったため、ロブソンレザーに張り替えを依頼。インパネはファーストによるピアノブラック仕上げ。フロアマットまでモノトーンとしているためインテリアの統一感がよく、落ち着いた雰囲気となっている





機能面ではBMCの吸気系にスティーレの強化アクチュエーター、レコードモンツァの排気系をチョイス。ベースが595Cなので赤の配色がちよっと多くなっているのがアクセント。たとえば国産車などと比べると、正直に言えば出来が悪い、と感じる部分もあるそうだが、それも含めて気に入って乗っているとのこと



機能面ではラヴォーノのブレーキでボディ補強をし、レコモンマフラーをセット。ブレーキパッドは奥様の595Cも合わせて低ダストのものに交換している。昔はNC型ロードスターやR50ミニにも乗っていたそうだが、今はこの500Cがお気に入り。普段遣いはこっちのクルマで、遠方へのお出かけは595Cで使い分けているそう

CHECK!!

アバルト 595C ツーリスモ ちろるさん

ご夫婦がそれぞれチンクエチェントに乗っている、というのも珍しいが、それぞれモデル違いだが同じイメージにまとめている、というのは凄い。まずは奥様のクルマから。レース好きで独身時代からレースを観にサーキットに通っていた奥様は595Cで、ホイールはオーゼットレーシングのレジェンダ。サスペンションはビルシュタインB14サスキットで、75パフォーマンスのブレースを装着することによるボディ補強も実施している。



OWNER'S VOICE

双子のビコローレです。近所で二度見されます。



CHECK!!

アバルト 595C 石川貴史さん

旦那さんのモデルは500C。もともと屋根が開くクルマが好きということから選んだのが500Cだったそうで、サスペンションはノーマルのままホイールにオーゼットのスーパーツーリスモGTをセットしている。黒と白の2トーン、ビコローレでまとめているところにセンスを感じるこのクルマ、ホイールをあえて16インチサイズに抑えていることでタイヤの厚みがあって、それが可愛さを強調。お子さんも気に入っているモデルだ。



UN ARTICOLO SPECIALE CONSIGLIATO PER TE

あなたにおススメの特別な逸品

レコメンホイール

A special recommended WHEELS



あなたのフィアット&アバルトに似合う、至高のホイールをお届けするコーナー。デザイン、フィッティング、インパクト。どこをとっても間違いなしのモデルばかりを厳選してみました！



OZ Racing Sparco

オーゼットレーシング / スパルコ

問：オーゼットジャパン
TEL 053-469-5011
<https://www.oz-japan.com>

PHOTO: Festico
TEXT: 塩見誠

本命イタリアンブランドから 珠玉の逸品を厳選。



OZ Racing

RALLY RACING

オーゼットレーシング・ラリーレーシング

マットブラックの 重厚な輝きで魅了

1988年にデビューしたラリーレーシングは、悪路を全力で走るラリーにおいて、飛び石や土砂からブレーキシステムを守るために生み出されたディスクデザインが特徴となっている。この革新といいスタイルはオーゼットの知名度を高めただけでなく、ホイールは単にタイヤをセットするためのものではなく、クルマの走りを支える重要な構成部品であることをあらためて認識させてくれた。そこから進化を遂げた現モデルにもコンペティションの世界からフィードバックされた性能と強度は受け継がれている。新色マットブラックはグリジオカンポボーロとの相性がバツグンだ。FIAT600に適合する、PCD108の16インチサイズも追加されたのがトピック！



OZ RALLY RACING

- ☐ サイズ：16 × 7J IN35 4H PCD98
- ☐ 価格：¥46,200
- ☐ フィアット 500、アバルト 595 (ブレンボブレーキ対応)
- ☐ カラー：マットブラック (追加カラー)



OZ RALLY RACING

- ☐ サイズ：16 × 6.5J IN28 4H PCD108
- ☐ 価格：¥45,100
- ☐ フィアット 600
- ☐ カラー：マットブラック (追加サイズ)



sparco
Terra

スバルコ・テラ

sparco Terra

- ☐ サイズ：16 × 7J IN37 4H PCD98
- ☐ 価格：¥41,250
- ☐ フィアット 500、アバルト 595 (ブレンボブレーキ対応)
- ☐ カラー：グロスブラック (追加カラー)

ステアリングやシート、ハーネスや、レーシングスーツ、ヘルメットといったモータースポーツギアにおけるトップブランドのひとつがスバルコ。そのスバルコがオーゼットと共同開発したホイールがこのスバルコ・テラだ。ベースとなるデザインはオーゼットがこれまで培ってきたWRCでの経験を生かしたもの。センターパッケージの面積を広くとることで飛び石などからブレーキシシステムを保護しつつ、ハブまわりの剛性を高めることでステアリングフィールを高いレベルで確保し、確実な操作を実現してくれる。今回新色としてグロスブラックがデビュー。足もとを引き締める効果の高いだけに合わせるボディカラーを選ばない。





OZ Racing Super Sport

オーゼットレーシング・スーパースポーツ

細身が際立つ V字型スポーク

スリムな2×5スポークがセンターキャップからリムエンドまで伸びることで、脚の長さを見せているのがスーパースポーツのポイントといえる部分。5組のV字スポークは内側に切削を入れることで細身を強調しているが、よく見ると高さがあって、それがねじれ剛性を確保するための工夫となっている。さらにボルトホールもデザインに取り込んでいるために開口部が大きくなっていて、ブレーキシステムの冷却という面でも有利だし、大径ローターや対向ピストンキャリパーを収めるだけの容量も確保されている。サイズバリエーションは最小18インチからとなっているため、ドブロのカスタマイズを考えている人にオススメしたい。

OZ Racing Super Sport

- ☐ サイズ：18 × 8J IN45 5H PCD108
- ☐ 価格：¥67,100
- ☐ フィアット・ドブロ（リフター、ベルランゴ）
- ☐ カラー：マットブラック、スターグラフアイト



sparco FF1

スパルコ・エフエフワン



sparco FF1

- ☐ サイズ：17 × 7.5J IN35 4H PCD98（※チューナーサイズとなります）
- ☐ 価格：¥55,550
- ☐ フィアット 500、アバルト 595（ブレンボブレーキ対応）
- ☐ カラー：ゴールド、マットブラック、ホワイト

鋳造によって造形をしながら、リムはホイールを回転させながら圧延をして成型するフローフォーミング製法を採用することで、粘り強さと軽さを両立させているのがスパルコFF1のポイント。バランスのいい10本のスポークはスリムだし、センターパッケージには軽量化のためのホールも設けられていることから、装着したときのスポーツイメージが強い。スポーツ走行をするオーナーにうってつけ。

ノーマル状態が

様変わり!

#02

RED POINT

レッドポイント

TEL058-370-5064 <https://www.redpoint.co.jp>

600ハイブリッドをいち早く導入し 将来を見据えてテスト&ファインチューン!

PHOTO: FesTrico
TEXT: 塩見 誠

ラリーレーシングは17x7.0J+25でトレールレーンT/Aは215/60R17をセット。見た目よりもはるかに静かで、乗り心地もいい



今回600ハイブリッドに装着したのはスリットローターと低ダストパッドの組み合わせ。逆スリット装着したのでファイルが伝わりやすい



ビットスペースは広大だが全国から作業依頼車が集まるため事前連絡&予約は必須。電動モデルや先進安全装備車への作業にも対応してくれている

強い。これはアリだ。ロードノイズが小さく、乗り味もゴツゴツしないため普段の街乗りでも自然に使える。ブレーキはダストが少ないためホイールが汚れず、スリットローターは強く踏んだときに利き味がペダルに伝わるので安心感が強い。これはアリだ。

ファイアットやアバルトだけではなく、アルファロメオやプジョーなど、ラテンなクルマの日常整備からカスタマイズまで、すべてを任せることができるのがレッドポイント。純正状態を維持するというのがすべてではなく、日本での使用状況により高いレベルで合わせることはできないか、ということをつねに考えていて、そのためにはオリジナルパーツ開発にも積極的で、幅広いオーナーのリクエストに応えることができる体制を整えている。

そんなレッドポイントが早くも導入したのがセイチェント・ハイブリッドだ。取材時は納車直後ということもあって低ダストブレーキパッドへの交換も含めたブレーキシステムのグレードアップと、あえて17インチへとインチダウンをしたオーゼット・ラリーレーンT/Aの組み合わせをチェック。大柄なセイチェントのイメージにマッチした足もとの雰囲気はワイルドだが、トレールレーンには思いのほか



ブレーキフルード交換は圧送マシンを使うのが基本。リヤブレーキキャリアに電動システムを使用しているため、パッド交換はテスターを使用してメンテナンスモードへの移行が必要となる。回生ブレーキが強いのでパッドの減りは予想以上に少ないかも！



FRONT BRAKE (SessA 低ダストブレーキパッド ／スリットディスクローター)

制動力の多くの部分を受け持つフロントブレーキは初期制動の強さよりも踏力に応じてリニアに利きが変化するようにチューニングされている。スリットローターとセットで装着することで、摩擦力の大小がスリットの振動としてペダルに伝わってくるため、よりコントロールしやすくなる。もちろん最大のメリットは、ホイールが汚れないということだ



REAR BRAKE (SessA 低ダストブレーキパッド ／スリットディスクローター)

ACC など最新技術の要となっているのが後輪ブレーキ。電動パーキングの採用は、速度や姿勢を繊細にコントロールするためには電動のほうが便利だからと採用されたもの。そのため現代のリヤブレーキパッドにはただ利くというだけではなくさまざまな性能が要求される。レッドポイントのブレーキパッドはその点まで考慮して開発されている

WHEEL OZラリーレーシング

(サイズ：17×7J+25、PCD108/4H、カラー：ダークグラファイト)



セイチェント・ハイブリッドにインチダウンとなる 17×7.0J+25 をセット。その上でよりワイルドさをアピールするため、スプリングに 10mm 厚のゴム板をかませて車高を上げてみた。これが思いのほかカッコよかったため、今後オリジナルで車高が高くなるスプリングを開発する予定。そのときには 20mm アップくらいを目標とするかも

アバルト595/695適合の 16インチにNEWカラー！



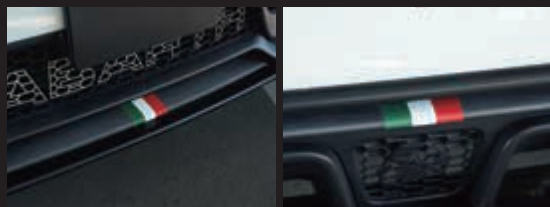
OZラリーレーシング・ レッドポイントオリジナルスペック (サイズ：16×7J+30、PCD98/4H、カラー： クレイグレイ)

レッドポイントのオリジナルカラーを身にまとったラリーレーシングがこれ。クレイグレイはグリジオカンボポーロを思わせる色だ

ほかにも“痒いところに手が届く”
おすすめアイテムがぎっしり!

CODETECH CAM

コードテックCAM



Front & Rear Bumper Tricolor Decal ¥4,400

アバルト595/695、FIAT500のフロント&リアバンパーへ簡単に取り付けられる、イタリアンアクセントのデカール。1枚入り



HID to LED 6500K Headlight Conversion Bulb (D1S / 2個セット) ¥25,300

LED High Beam Bulb (2個セット) ¥11,000

HIDバラストに接続するだけで、手軽に最新のLEDヘッドへ。LED化したヘッドライトとコードできるハイビームバルブも設定



Rear Center Splitter (グロスブラック / マットブラック) ¥47,300 / ¥52,800

小ぶりなデザインで、純正ディフューザーにマッチするセンタースプリッターはアクリル素材。マットブラックとグロスブラックを設定



Aero Flick Canard Plane

(左右1セット / 左右2セット)
¥6,050 / ¥11,550

Front Lip Spoiler (マットブラック) ¥36,300



シリーズ4以降専用のフロントリップスポイラー。アバルトの純正バンパーに合わせた立体感ある造形でスポーティな印象を高める

Rear Winker Clear Smoke Film

(左右セット) ¥5,500

Rear Reflector Clear Smoke Film

(左右セット) ¥6,050



ウィンカーレンズ、リフレクターレンズに貼り付けることで、手軽にスモークレンズへと早変わり。耐摩耗性と伸縮性に優れた特殊ウレタン素材



ブレーキローターもブレンボ化!



ブレンボSPORT TY3 (フロント/リヤ) ¥35,750 (1枚) / ¥19,250 (1枚)

ブレンボブレーキ装着車用のアップグレードブレーキディスク。純正ディスクと同サイズのフロント205×22mm、リヤ240×11mm。レーシーなマルチグルーブスリットをディスク全面に配した